伝えていかなければいけない事

＜長崎大学の門柱＞

郡山市立郡山第五中学校２年　髙 野　結 香

１　研修への参加に当たって

私は小学３年生の頃、郡山で戦争の被害を受けた方のお話を聞いた。興味を持ち自分で調べてみたが、調べれば調べる程戦争や原爆への怖さが膨らみ、それ以来原爆などを調べるのをやめた。しかし、私はこの事業のことを聞いて参加をしてみたいと感じた。なぜなら、原爆の事をよく知らない私よりも年下の人たちに、「戦争や原爆は怖い事。そして、その怖さは誰もが知っていなければいけない事。」という事を伝えたいと思ったからだ。今思えば、前に一度興味を持ったからこそ感じた事なのではないかと思う。

この事業で学べる事は、全てがインターネットに載っているわけではない。だからこそ、この事業に参加し、沢山の人にここで学んだ事を伝えたい。その思いを胸に私は今回参加した。

２　研修に参加して心に残ったこと

（１）奥村さんからのお話

私たちは当時８歳だった「奥村アヤ子さん」から被爆当時のお話を聞かせてもらった。その中で最も印象に残ったのは「音」についてだった。奥村さんは、「爆発したときは光しか見えなくて、一切音は聞こえなかった。」と言っていた。私は正直、とてつもなく大きな音がしたと考えていたのでとても印象に残っている。また、奥村さんは「平和の原点は心の痛みであり、心の痛みを知る事によって平和が生まれる。核兵器の怖さ、家族の大切さを沢山の人に知ってもらいたい。」と教えてくれた。私は、この想いを伝えていかなければいけないと強く感じた。

（２）現地からのガイド

原爆資料館や平和の泉などについての説明を受けた。その中でも特に印象に残っているのは長崎大学(旧長崎医科大学)にある門柱だった。その門柱は原爆の爆発の影響で正面にずれていて前に約９㎝、後ろが約１６㎝浮いて傾いている状態だった。もちろんその門柱は人よりもはるかに大きく、重たいので簡単には動かない。なので、より衝撃が強かったのだという事が感じられた。しかも、この長崎大学は爆心地から５００メートル離れているのにも関わらず、校舎は全壊全焼してしまったと言う事に驚いた。

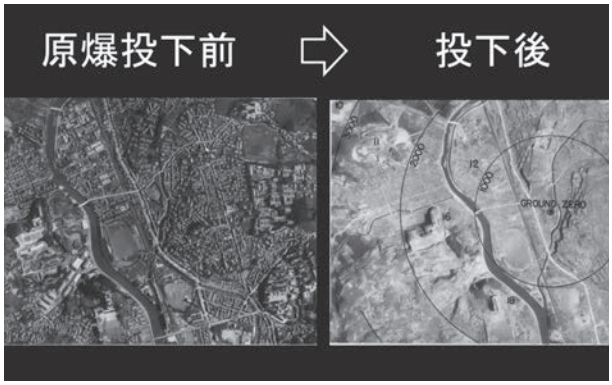
３　研修に参加して感じたこと

この研修を受けた３日間の中で改めて貴重な体験ができ、本当に参加してよかったと思う。

今回のように、被爆者から直接当時のお話を聞ける機会は減ってきている。だからこそ、このような経験を出来た私たちが下の世代にこの研修で感じた事や体験した事を若い世代ならではの話し方や伝え方で伝えたい。

今の生活が当時に比べ、平和でありがたいことが沢山あるという事を忘れずに生活していきたい。そして、「長崎を最後の被爆地に」この想いも伝えていき、原爆は二度と起きてはいけない事だという事を沢山の人に伝えていきたい。

戦争の悲惨さと平和の尊さ



＜全てを奪う原爆＞

郡山市立郡山第六中学校２年　上 遠 野　心 一

１　研修への参加に当たって

私は、今回の研修に参加するまで広島に投下された原爆についての知識しかなく、長崎に投下された原爆の知識はあまりなかった。しかし、平和推進事業に参加することで、長崎原爆や平和について、くわしく知りたいと思った。また、今回平和推進事業に参加するにあたって、私は、原爆の具体的な内容や威力について、多くの人に知ってもらいたいと思った。そして、今後このようなものは二度と使ってはならないとみんなに感じてもらえるようにいろいろなことを学び、伝えていきたいと思った。

２　研修に参加して心に残ったこと

（1）被爆体験講話

長崎原爆の被爆者である、奥村さんのお話を聴き、私は、原爆投下時に感じたことや見たものなどを詳しく知ることができた。その中でも、特に印象に残ったことが2つある。

１つ目は、原爆投下時に感じたことについてである。私は、原爆投下時に「音が聴こえなかった」というお話を聴き、原爆がどれほど恐ろしいものだったのかを改めて感じることができた。

２つ目は、家族が自分ひとりになってしまったことである。私は、家族が放射線で次々と亡くなってしまったというとても悲惨なお話を聴き、原爆の恐ろしさがその威力だけでなく、放射線にもあることに改めて気づくことができた。この放射線は、私達が住む福島にとっては、身近なものであり、そういった視点からも、私は、原爆の恐ろしさを考えることができた。

（2）原爆資料館

私が参加した今回の研修では、実物こそ見ることができなくて残念だったが、映像や写真を通して、長崎に実際に行ってみなければわからない多くのことを知ることができた。その中でも、私が特に印象に残っていることがある。

それは、１１時２分を示したまま止まってしまった柱時計の映像だ。私は、この映像を見たとき、原爆が人々の生活を突如として奪ってしまったということを実感することができた。

３　研修に参加して感じたこと

私は、この３日間の研修を通して、被爆された方々からのお話でしかわからないことや原爆資料館に実際に行ってみなければわからないことなど多くのことを学ぶことができた。その中でも、全国の各自治体とのオンライン交流会では、私たちとは、また違った視点からの話があり特に印象に残った。

そして、私はオンライン交流会で多くの異なる意見に触れ、物事を自分の視点だけで考えるだけでなく、物事を決めたり、考えたりするとき、周りの意見を取り入れて行動することが大切だと気づくことができた。

さらに、今後の課題は友達や多くの人に核兵器がどれだけ悲惨なものか、あたりまえだと思っている平和がどれだけ尊いものなのかを理解してもらうことだと思う。

核兵器のない世界へ

＜きのこ雲＞

郡山市立郡山第七中学校２年　冠 木　若 葉

１　研修への参加に当たって

私は、広島の原爆ドームに行くまでは、広島・長崎への原子爆弾投下について、自分には関係ないただの歴史の一部だと思い、自分から触れることはなかった。

小学６年生の冬、家族と旅行で広島の原爆ドームに行った。そして、想像をはるかに超えた原爆の悲惨さを知った。小学６年生だった私は、なぜ落とされたのか？とか知りたいことを教科書で調べたり、父に聞いたりした。けれど、教科書に載っている一般的なことしか知ることができず、その時の状況などを詳しく知りたいと思っていた。

そして、研修をやるという事を知り、絶好の機会だと思った。私は、あの時調べて知ったこと以外にもっと詳しいことを知りたいと思い、この研修に参加した。

２　研修に参加して心に残ったこと

(1) きのこ雲

上の写真は、アメリカ軍が撮ったものだ。これは、長崎に原子爆弾が投下されたときにできたきのこ雲の写真である。

この大きなきのこ雲の下には、長崎市がある。

きのこ雲が大きすぎて、４０５．８６平方キロメートルもある長崎市がほぼ見えない。このことから、原子爆弾の威力のすごさを知った。

このきのこ雲の下では、爆心地から３キロ離れた所まで被害が及んだ。爆心地から１．２キロメートルの範囲で屋外に居た人などは、熱線などでやけどを負い亡くなった。他に、放射線による被害もたくさんあった。

(2)青少年ピースフォーラム

青少年ピースフォーラムに参加し、原子爆弾の威力や長崎での被害を学んだ。

全て心に残ったが、特に心に残ったことは、鉄筋コンクリート造りの頑丈な建物でも爆風や熱線を受けて、崩れてしまうことだ。

中心地から５００ｍの地点にあった城山国民学校は鉄筋コンクリート造りだった。私は、さすがにものすごい爆風や熱線をうけても、コンクリートは頑丈だから、コンクリートだけ残るのではないかと思った。

あらためて、原子爆弾の威力は想像をはるかに超えるものすごいものだったという事がわかった。

３　研修に参加して感じたこと

私は、３日間の研修を通して、原爆の実相、原子爆弾の恐ろしさ、そして、今どれだけ幸せかを知ることができた。私は、青少年ピースフォーラムで全国の中学生と意見交換ができていろんな人の考えを知ることができて、考える幅が広まったと思う。

しかし現実は、核兵器が世界にまだある。それは、世界は平和ではないということ。だから私は、戦争を知らない私たちの世代に今回学んだことを伝えなければならない。

世界から原子爆弾がなくなってほしい。

平和の大切さ

＜平和の泉＞

郡山市立富田中学校２年　二 瓶　明 莉

１　研修への参加に当たって

今、私たちの日常にある「当たり前」。日常がどれほど平和なものかを私が痛感したのは小学生の頃だ。社会科の授業で「戦争」に関する学習を通して、その悲惨さや平和の尊さについて考えさせられた。そのときの私は、「もう二度と同じことを起こしてはならない、これ以上被害者を出してはならない」と、強く思った。さらに、中学１年生の国語の授業で、「おとなになれなかった弟たちに……」という物語に出会った。弟の描写、作者の意図に触れたとき、戦争に対する恐怖心が増したのを覚えている。こうした思いを抱いていたため、２年生が参加できる「ナガサキへのメッセージ」にぜひ参加したいと思った。

２　研修に参加して心に残ったこと

（1）平和の泉

上の写真は、平和公園にある「平和の泉」の写真である。原爆の影響で体が焼けただれ、水を求めて亡くなった被害者の霊に水を献げ、世界の平和が永久に続くことを願い、建設された。私は、手前にある石碑を見たとき、心に痛みすら覚えた。

本当は、あぶらの浮いた水など飲みたくなかったはずだ。しかし、そんな水を飲んでしまうほど、のどが乾き苦しい状況が、原爆によってもたらされた。それを知ると、「いま」過ごしている私たちの日常が、どれほど平和で安心できる状況なのかを推し量ることができる。今、私たちは当たり前のように水が飲める。好きなときに、好きなだけ。しかしこれは、常に約束されたものではなかったのだと、戦争がもたらす凄惨さを痛切に感じた。

（2）平和祈念式典

今年の平和祈念式典にはオンラインで参加した。真剣な思いで、平和を希求する一人として、式典に臨むことができたと思う。式典では、長崎平和宣言や菅総理大臣の挨拶、長崎市長の挨拶などを聴くことが出来た。どの挨拶にも力がこもっており、私たちに伝えてくるものがあった。

１１時２分。皆でその場に立ち、「長崎の鐘」の音に合わせ、黙とうをした。その瞬間、私の足は震え、涙が出そうになった。今思うと、それほどまでに被害者の悲しみや原爆の怖さを感じることができたのだろう。悲しみは計り知れないほどのものだ。しかし、ほんのわずかかもしれないが長崎の方々の感情に触れた気がした。それほど心に残るひとときだった。

３　研修に参加して感じたこと

私は、今回の「ナガサキへのメッセージ」に参加し、多くの貴重な経験をさせていただいた。そこで、改めて戦争に対する「知識」を得たいと思った。今の私は、余りにも知らなさすぎだ。だから、もっと深く知りたい。戦争について。原爆について。被害者の思いについて。恐ろしさや悲惨さを。そして、平和の尊さを。今、私たちの身近にある「当たり前」。それがどんなに平和であるか。そして、「当たり前」は、常に当たり前ではないということ。これらを考え直す時間をもつことが大切なのである。しかし、戦争体験者の高齢化が進み、戦争があった時代を伝えられる人が減ってきているのが現状だ。だからこそ、今を生きる私たちが思いを繋ぎ、後世に伝えていかなくてはならない。そうすることにより、長崎の願いである「世界中から核兵器がなくなり、戦争がない平和な世界」が実現できるのではないかと思い、その世の中が続いていくことを私は願う。

最後に、今回の「ナガサキへのメッセージ」に参加し、有意義な時間を過ごせたことを本当に良かったと思う。先生方や協力してくださった方々に心から感謝したい。

世界に平和を

＜長崎平和祈念式典の様子＞

郡山市立大槻中学校２年　橋 本　尚 己

１　研修への参加に当たって

僕は最近戦争に関する映画を見た。映画を見て、原爆について少し知ることができたが詳しくは理解できなかった。そのため、いつか広島や長崎に投下された原子爆弾について知りたいと思っていた。そのようなときに、先生から「郡山市平和推進事業」に参加してみないかと、お誘いいただいたのだ。この機会に、長崎へ投下された原子爆弾について詳しく知り、他の中学生との意見交換を通して戦争や原発、平和に対しての考えを深めたいと思い、この事業に参加することにした。

２　研修に参加して心に残ったこと

（1）長崎平和祈念式典

この長崎平和祈念式典は、長崎に原爆が投下された８月９日に行われる式典である。原爆犠牲者の冥福を祈り、核兵器の廃絶と、平和の実現を世界に訴えるためにできたものである。内容として、原爆死没者名奉安、式辞、献花、献水、黙とう、長崎平和宣言、平和への誓い、児童合唱、来賓挨拶、「千羽鶴」の合唱などがある。僕はこの式に参列し、特に「黙とう」と「千羽鶴」が心に残っている。黙とうは、長崎に原爆が投下された１１時２分に行う。その時のことは、僕も黙とうしており目で見ることができなかったが、音を聞いていて、どこからも誰の声も聞こえなかったことから皆、長崎原爆のことを真剣に考え黙とうしていると感じて感動し心に残っている。合唱曲「千羽鶴」は、原爆の犠牲者のために作られた曲である。この曲の歌詞を全国から募集していたことを知り、驚き心に残っている。

（2）平和記念像

この平和記念像は、先ほど紹介した長崎平和祈念式典が行われる場所の平和公園にある像である。空に上げた右手は「原爆の脅威」、水平に上げた左手は「平和」を表している。そして曲げた右脚は「原爆投下後の長崎の静けさ」、立てた左脚は「救った命」、軽くとじた目は「戦争の犠牲者の冥福を祈る」という意味がある。体の一部に意味があることは知っていたが、こんなにもたくさんの意味があるとは思わなかった。そして、長崎平和祈念式典に参列し画面越しではあるが平和記念像を見られたこともあり、心に残っている。

３　研修に参加して感じたこと

僕はこの３日間の研修に参加して、原爆を経験した人の話を聞き、市内の中学生や全国の人たちと意見交換をするなど、貴重な経験をさせていただいたと思う。この事業で、原爆の恐ろしさや平和の尊さについて学び、いろいろな人と意見交換し考えを深めることができた。これから、学び考えたことを友達や家族に伝えたいと思う。

過去はぬぐえない ～平和への一歩～

＜黒焦げで見つかった人＞

郡山市立小原田中学校２年　松 崎　　結

１　研修への参加に当たって

私が原爆について知っていることを挙げるとすれば、核分裂の膨大な力でおきた大惨事ということくらいで、知識も興味も無かった。しかし、「原爆の被害があったからこそ、今の平和がある。」という言葉を耳にし、自分の心の中で何かが弾けるような気持ちになった。そのようなときに、今回の研修の話があり、気になって原爆のことを少しだけ調べてみた。息が止まるような場面の写真も目にした。この機会に、あの言葉の意味を確かめてみたいと思うようになり、今回の研修を希望した。

２　研修に参加して心に残ったこと

（１）被爆体験講話

８歳の頃に被爆された奥村アヤ子さんの講話を聞く機会があった。特に印象に残ったのは、アヤ子さんの兄についての話だ。アヤ子さんの友達の兄は上の写真の通り黒焦げで見つかったが、アヤ子さんの兄は見つからなかった。アヤ子さんはどう感じただろうか。もし私に兄がいて黒焦げで見つかったらどう思うだろう。見つからなくても黒焦げの状態の人を見れば、兄も同様だと感じ、その光景が一生脳裏に焼き付いてしまうのではないかと思う。少し状況は違うが、私にも生まれてくるはずの妹がいたが、逢えることなく死産してしまった。逢えなかったことが今でもとても悲しい。私やアヤ子さんのように、逢えるはずの人と逢えなくなってしまう、辛く苦しい思いを経験する人がこれ以上増えないように、私たちは平和への願いを持ち続けなければならないと強く感じた。

（２）平和祈念式典　～合唱 千羽鶴～

長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典では、今年被爆５０周年記念「千羽鶴」の合唱が行われた。

歌詞には、紺・白・赤・紫・黄・青・緑・藍・桃・虹色の鶴が出てくるのが印象的だ。聴いていてとても勇気が沸いてくる。原爆の被害の生々しさ、何度挫けようとも倒れない力強さ、尊い平和を心から祈る想い、その感情が、ダイレクトに、痛いほど私の胸に突き刺さった。

３　研修に参加して感じたこと

過去、戦争が勃発したことで、国民は戦争中心のより厳しく、ただただつらい人生を強いられた。今では考えられないことであるが、その歴史があってこその平和であることに気づかされた。深く体や心に刻まれた傷も、原爆の犠牲になった多くの命も、起こってしまったことはもう戻せないし、過去はぬぐえない。「どうすれば平和になるのだろう」と考えていたが、「皆が意見を出し合い、よりよくしていくのが平和ではないのか」と思えてきた。私が今まで知らなかった原爆を知ることで見方が変わり、意見交換会を行ったことで平和とは何なのか、今私たちにできる平和の第一歩は何かという疑問に全身全霊で向き合えた気がした。一人ひとりが平和への考えを持ち、今の時代に合った方法で意見を出し合える日がくると願っている。

平和の大切さを次の世代へ

＜爆弾を避けて＞

郡山市立宮城中学校２年　草 野　藍 里

１　研修への参加に当たって

小学３年生のころ、国語の授業で「ちいちゃんのかげおくり」という物語を読んだ。家族を残して出征しなければならない父と家族とのやりとりから、戦争の悲惨さ、家族と離れ離れになってしまうつらさを知った。これをきっかけに戦争や核兵器について、詳しく知りたいと思った。

学校で、今回の研修の募集を知り、ぜひ参加して戦争や平和の尊さについて深く学びたいと思った。教科書や文学作品等の中でしか原子爆弾の投下を知らない私にとって、核兵器の恐ろしさを知ることは、とても大切だと思う。７６年前の長崎で、何が起こったのかを知ることによって、戦争や核兵器のない世界の実現への第一歩となるのではないかと考え、今回の研修事業への参加を希望した。

２　研修に参加して心に残ったこと

（1）被爆体験講話を聞いて

被爆当時８歳だった、奥村アヤ子さんの話を聞いた。大きな柿の木の下にいたアヤ子さんは、経験したことのない激しい光に襲われた。「ピカッ」とものすごい光と同時に、家族も消えてしまったという。奥村さんの、「『原爆』という2文字が、自分から消えてほしい。」という言葉がとても印象的だった。

アヤ子さんが気付くと、家がなくなっていて、自分一人になっていたそうだ。もし自分がこの状況にいたら、恐怖と不安で動けないに違いない。

（2）意見交換会・発表に参加して

青少年ピースボランティアの方々とオンラインで意見交換を行った。「平和だと思うとき」というテーマについて、「学校で、クラスのみんなと授業を受けているとき」という自分の意見を述べることができた。戦時中は、楽しい学校生活を送ることも出来なかった。終戦してから今まで、戦争もなく、平和に暮らせる日本に感謝すべきであると思う。そして核兵器を廃絶することが、平和のために必要であることを次世代に伝え続けたい。

３　研修に参加して感じたこと

オンラインでの被爆体験講話や、被爆遺構のガイド、そして平和祈念式典の視聴など、沢山の体験をさせていただいた。これらの体験は私にとって、平和についてもう一度考えたり、自分とは違う様々な意見を聞いたりと、とても有意義だった。

１９４５年８月９日。上空５００メートルで「ファットマン」という原子爆弾が長崎へ投下されてから７６年。この原子爆弾で尊い命が一瞬に奪われたことを考えると、改めて原子爆弾が恐ろしいと感じた。もう二度と戦争が起こらないよう、原爆の被害者が出ないような世界にするために、核兵器の恐ろしさを知ることが大切だ。

戦争を経験していない、恐ろしさを知らない人は非常に多い。だからこそ、今回の事業に参加した私たちが、この想いを次の世代へと伝えていきたいと思う。

平和を願って

＜爆心地＞

郡山市立御舘中学校２年　横 田　和 大

１　研修への参加に当たって

「長崎」と聞いて一番に思い浮かぶものは、「原子爆弾」だ。私は社会科の授業や祖父母の話などから、この平和な日本でも今から約８０年前に戦争が行われていたこと、広島や長崎に原子爆弾が投下されたこと等の知識はあった。しかし、それだけで、広島や長崎の原爆被害等について深く考えることは無かった。

今回、学年の先生から平和推進事業の話をいただき、この機会に戦争や平和について自分のこととしてしっかり考えたいと思った。そして、戦争を知らない私たちの世代に戦争の悲惨さと平和の大切さについて伝えることができたらと考え、この平和推進事業に参加した。

２　研修に参加して心に残ったこと

上の写真は爆心地の写真だ。この上空で原爆は炸裂し、多くの人が亡くなり、被害を受けた。

今回の被爆体験者講話でお話をして下さったのは、被爆当時８歳だった奥村アヤ子さんだ。彼女も原爆により被害を受けた1人である。彼女は４６年間、「原爆」の２文字が恐ろしく、話したくも聞きたくもなかったそうである。しかし、周りの人達からの「当時の様子を多くの人に伝えたらどうか。」「当時の様子はあなたにしか分からない。」という声もあり、勇気を出して今回の講話に参加された。私はそれを聴いた時、奥村さんへの感謝の想いで胸がいっぱいになった。そして、奥村さんの心の傷が未だに癒えていない、辛く悲しく苦しいものだと知った。

原爆投下の瞬間、奥村さんは友達と外で遊んでいたそうだ。すると、空にとても強い光を放つ火の玉が形成された。次の瞬間、強烈な熱線と爆風が彼女を襲った。彼女は体に大変な火傷を負い、その跡は今でも残っている。奥村さんの話を聞いて、原爆投下後の長崎は想像を絶する世界だと思った。

印象に残った奥村さんの言葉がある。「二度と戦争をしてほしくない。核兵器は消えて欲しい。」被爆された奥村さんの言葉だからこそ、心に刺さった。世界には、未だにたくさんの核兵器が存在している。奥村さんの願いを私たちの世代が受け継ぎ、核兵器の無い平和な世界をつくる努力をしていかなければならないと強く思った。

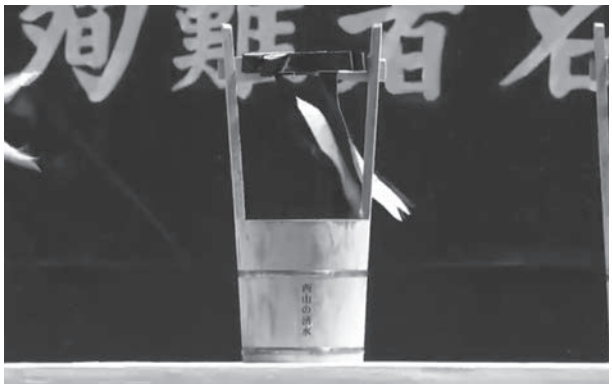
３　研修に参加して感じたこと

今回の研修で、戦争や原子爆弾の恐ろしさを改めて知ることができた。

今も原爆の後遺症で苦しんでいる人がいる。大切な人を亡くし、心にぽっかりと穴が空いたままの人がいる。戦争で亡くなった人々は、きっともっと長く生きたかっただろう。だから、その分私たちが、先祖から受け継いだ命を大切にして、今を一生懸命生きなければならないと改めて思った。

今回の平和推進事業を通して学んだこと、感じたことを、これから多くの人に伝えていきたい。そして、平和な世界を願う気持ちをたくさんの人に抱いてもらい、後世に平和のバトンを繋いでいくことができたらと思う。

平和な未来を築くために



＜思いのこもった献水＞

郡山ザベリオ学園中学校２年　西 野　早 咲

１　研修への参加に当たって

私がこの研修に参加した動機は、学校の世界遺産調べで広島の原爆ドームについて調べた際、原子爆弾について知ったためである。その時は全てインターネットで調べたため、現実味がなく、全く想像ができなかった。

そんな中、今回の研修の話が持ち上がった。それを聞いて核兵器のことをおろそかにしてはいけないと強く思った。また、被爆者がいなくなった後も、次の世代に語り継いでいかないといけないと感じた。今回の研修で学んだことを家族や友達などの身近な人たちと共有することも、この研修に参加した目的の１つである。

２　研修に参加して心に残ったこと

（1）長崎の愛情

私は長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典を視聴して感銘を受けた。上の写真はそのときの様子で、これはその中でも「献水」という儀式を表している。この水は、原爆投下後に水が欲しいと訴えながら亡くなった被爆者のための水である。長崎の東西南北の水と平和の泉の清らかな水が捧げられた。私はこれを見て長崎の方々の愛情を感じた。苦しまれた一人ひとりのことを想うことがどんなに大切なことなのか。日本の平和が多くの犠牲の上で成り立っていることを実感した。生きたくても生きられなかった被爆者の想いを心にとめて、自分や周りの命を大切にして生きようと思った。

（2）被爆者の現実

青少年ピースフォーラムでの実際に被爆した方の講話も印象的だった。原子爆弾によって、ほとんどの人が熱線や放射線によって亡くなってしまうこと。目覚めた人はその場が一瞬にして残酷なことになったことを嫌でも受け入れなければならなかったということ。そしてその放射線の影響は原子爆弾が落ちた直後だけでなく、一生涯病気にかかりやすくなってしまうことを理解した。私はこれを聞いて初めて「長崎を最後の被爆地に」と呼び掛けている意味が分かった。被爆者の方が時折涙を流しながら、核兵器廃絶を訴えているのを見るだけで心が痛んだ。そのため、絶対に核兵器をなくさなければならないと思った。

３　研修に参加して感じたこと

私はこの研修を通して自分の大きな成長を感じることができた。平和の奥深さを知り、いかに核兵器を廃絶することが重要なことなのかを理解できた。今までの私は、平和とはどのようなことかと聞かれても、普段通りの生活が送られればそれでいいと軽い気持ちで考えていただろう。しかし、それは核兵器がなくて初めて成り立つことだと知った。私たちのような核兵器の体験がない世代は、研修参加前の私のようにその悲惨さを知らない人がほとんどだということが問題だと思う。私にできることは、自分の周りの友達などに恒久平和の大切さを自分の言葉で伝えていくことだと考える。それによって核兵器廃絶の運動がより一層大きなものになればと願っている。

本当の恐ろしさを知って

＜原爆の熱線＞

郡山市立西田学園８年　門 馬　右 京

１　研修への参加に当たって

この研修に参加するまで、「原爆は危険なもの」としか考えていなかった。本などで原爆について調べることで、歴史の一部を知ることはできても自分とかかわりのあるものとは思えなかった。この研修では、事実を知るだけではなく、オンラインで人の想いを直接聞くことができたり、他の学校の人達と話し合ったりすることができる。日本の歴史にある「原爆が落とされた」ということをしっかり理解し、様々な考えを学ぶ機会になると思い、参加を希望した。

２　研修に参加して心に残ったこと

（１）原爆の恐怖

被爆体験者の方の話を聞き、「原爆はなんて恐ろしいものなんだ」と恐怖を感じた。通っていた小学校が原爆による衝撃と熱線により崩れている様子に絶望したり、すべてが吹き飛ばされた更地を前に言葉を失ったり…、原爆がどれほど人を苦しめ、多くの傷跡を残したかを伝えていた。

また、紹介された多くの写真はその恐ろしさを静かに今に伝えていた。この写真は、原爆の熱線によってどろどろに溶けてしまった６本のびん、一瞬で変色をした石、原形を失ったやかんである。これらは、原爆の威力を知るのと同時に大きな恐怖となって私の心に刻まれた。その他にも、弁当箱のご飯が炭になった写真、一瞬で更地になった爆心地の写真など、原爆が地上のすべてのものを奪い去った事実を伝えるものだった。

（２）平和の泉の手記

長崎原爆資料館オンラインガイドでは、実際に行かないと見ることができないものだけではなく、原爆投下後に必死に生きようとした人々の記録など、様々な真実が紹介されていた。

もっとも印象に残ったのは、「平和の泉」にある被爆当時９歳の少女の手記だった。「のどが乾いてたまりませんでした 水にはあぶらのようなものが一面に浮いていました どうしても水が欲しくて　とうとうあぶらの浮いたまま飲みました」９歳の少女にこんなつらい想いをさせた原爆に対して、恐怖だけではなく怒りを感じた。

３　研修に参加して感じたこと

この研修に参加し、「『原爆が落とされた』という歴史は、日本の平和、世界の平和のためにも語り継がれていくべきだ」ということを強く思った。しかし、このことを伝えられる人が減っているばかりか、世界には１３，０００発を超える核弾頭が存在しており、核への恐怖が消えない現状にある。地球から核弾頭を失くしていくためにも、原爆の被害や人々の苦しみを世界に伝える活動は、世界唯一の被爆国である日本の使命ともいえる。同時にその使命を担うのはこの研修に参加した自分自身でもある。この研修を通して感じたこと、学んだことを忘れることなく、世界の平和に貢献できる力となっていきたい。

７６年前のあの日から

＜背にガラスの破片を受けた作業衣＞

郡山市立湖南小中学校８年　佐 藤　姫 花

１　研修への参加に当たって

７６年前の８月９日、原子爆弾によって多くの尊い命が失われた。戦争を知らない世代である私たちの中には、戦争に対する意識があまりない人がいると考えられる。このままではいけないと思った。また戦争が起こってしまうかもしれないからである。戦争はどんな理由があっても起こしてはならない。今も世界では戦争によって苦しんでいる人がいる。そんな人々のためにできることはないだろうか。そこで、まず私は、自分自身が平和の尊さや核兵器の悲惨さと廃絶の必要性について学習し、周りの人に広めていくべきだと思った。だから、今回の平和推進事業に参加した。

２　研修に参加して心に残ったこと

（１）長崎原爆資料館

長崎原爆資料館には、核兵器の脅威や人体の影響についての資料が展示されていた。その中で強く印象に残っているのは、我が子をかばおうと背にガラスの破片を受けた江頭千代子さんの作業衣である。この作業衣から、建物のガラスが飛び散る程被害が大きかったことが分かり、命懸けで大切なものを守ったことが伝わる。また、原爆により大切な人を失った方も多くいたのだろうと連想させられる。当時の苦しみや悲しみは大きかったと思う。だからこそ、同じ悲しみを繰り返さないようにしなければならないと強く思った。

（２）青少年ピースフォーラム

研修２日目に被爆時８歳であった奥村アヤ子さんの講話を聞いた。奥村さんは、あの時から約４６年間恐怖で被爆したことについて話せなかったという。この奥村さんの話から、原子爆弾がどれほど恐ろしく、人を傷つけてしまうかが分かる。

研修３日目、全国の同世代の参加者との意見交換を行った。最初のテーマは「平和だと思うことは何か」だった。私は、勉強ができることが平和であると思った。他の方からは、趣味や当たり前の生活ができること等の意見があった。意見交換をすることで、より平和について自分の考えを広げることができた。

３　研修に参加して感じたこと

研修に参加する前は、戦争に対してあまり知識はなかった。しかし、３日間の研修を通して、核兵器廃絶の必要性や平和の尊さについてよく学ぶことができた。あの１発の原子爆弾により、生きることに恐怖をもつ人が今でもいる事を知り、心が痛む。

今回学んだことで、戦争によって苦しむ世界の人々の力になれるかもしれないと思った。今、ＳＤＧｓの活動が行われている。「貧困をなくそう」や「質の高い教育をみんなに」など戦争に関係する項目もあり、私たちの当たり前が当たり前ではない人もいる。これからの世代が、戦争によって苦しむ人がいなくなるように、私たちが伝えていかなければならない。

裏表紙記載の記念碑

平和祈念像（平和公園）

高さ9.7m、重さ30tある青銅製の像。長崎出身であり製作者の彫刻家北村西望氏は、この像に神の愛と仏の慈悲を表現した。

天を指した右手は「原爆の脅威」を、水平に伸ばした左手は「平和」を、軽く閉じた瞼は「原爆犠牲者の冥福を祈る」という想いが込められている。

平和の泉（平和公園）

原爆のため体内まで焼けただれた被爆者たちは、水を求めてうめき叫びながら亡くなった。その痛ましい霊たちに水を捧げて冥福を祈り、世界恒久平和と核兵器廃絶の願いを込めて昭和44年に完成。

平和の鳩と鶴の羽根を象徴した噴水と、原爆の被害にあった痛ましい少女の手記が刻まれている。

少年平和像（旧城山国民学校校舎）

爆心地に最も近かった学校である城山国民学校（現在の城山小学校）にある像。戦争、原爆で全てを失った城山国民学校の児童が平和を希求して立ち上がる姿を象っている。

当時5年生で父母を原爆で亡くした少年をモデルに昭和26年8月8日に建立した。

また、台座の「平和」の文字は、被爆当時1年生だった菅原耐子さんが6年生の時に家族を祀る仏壇の前で練習して書いたものだという。

浦上天主堂（長崎市）

キリシタン弾圧の禁制が解かれた浦上信徒たちによって建設が計画され、大正3年に完成したレンガ造りの教会。当時は正面双塔にフランス製のアンジュラスの鐘が備えられていたが、原爆の被害により全壊。

現在は鉄筋コンクリートで再建されたもので、レンガタイルで改装し、当時の姿に似せて復元した。周囲には被爆遺構の石像や1つ残ったアンジュラスの鐘などが配され、後世に原爆の痛ましさを伝えている。また、爆心地公園には原爆当時の遺壁が一部移築されている。

原子爆弾落下中心地碑（爆心地公園）

昭和20年（1945）年8月9日11時2分。アメリカのB29爆撃機から投下された原子爆弾は松山町171番地の上空約500mで炸裂した。

その爆心地には落下中心地標柱として碑が建てられている。塔の前に置かれた被爆殉難者名奉安箱には、爆死された方、被爆者でその後亡くなられた方々の氏名（複製）が奉安されている。

令和3年度　郡山市平和推進事業
「2021 ナガサキへのメッセージ」報告書

発 行 日　令和3年11月19日
発 行 者　郡山市・平和を考える市民の集い実行委員会（事務局：郡山市総務部総務法務課）

〒963-8601　郡山市朝日一丁目23番7号
電　　話：024－924－2031
F A X：024－924－0956
Eメール：soumuhoumu@city.koriyama.lg.jp

印刷製版　株式会社波デザイン

令和3年度郡山市平和推進事業「2021ナガサキへのメッセージ」報告書

郡山市

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C001626
VEGETABLE OIL INK
紙へリサイクル可
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

郡山市／平和を考える市民の集い実行委員会